



4/25 (月) 市民憲章の
実践活動を称えて

自然愛など5項目からなる浦添市民憲章について、積極的に実践または推進し、その行為が市民の模範であると認められる個人や団体に贈られる「浦添市民憲章実践者表彰式」が市役所で行われ、個人30人と3団体が表彰されました。

表彰式で浦添市民憲章推進協議会の比嘉勝昭会長は「受賞された方は浦添市の良さを更に高め、地域の連帯意識を高めた方々。感謝します」と、挨拶しました。また、受賞者を代表して内閣自治会の玉城勲さんは「今後も地域を活性化して、人と人をつなげていきたい」と、述べました。



4/20 (水) としょまるが来た！

市立図書館から遠い地域に住む方や来館することが難しい方へのサービスを目的として運行している「としょまる」が今年度から月1回、県立大平特別支援学校への巡回を始めました。巡回初日は、児童達はしばらく様子を伺っていましたが、やがてお目当ての本を探そうと様々な本を手取るようになり、児童達でいっぱいになりました。

「としょまる」では、多くの一般書、児童書のほか、雑誌やCD、紙芝居も貸し出しています。市内33か所を2週間に1回のペースで巡回していますので、是非ご利用ください。(各スケジュールについては浦添市立図書館ホームページをご覧ください。)



4/21 (木) こいのぼりに元気よく！
願いを込めて！

児童福祉週間の一環として、こいのぼり掲揚式が市役所玄関前広場で行われ、市内の保育園児や親子ら約800人が参加しました。

式ではこいのぼりの歌を元気いっぱいに歌ったり、児童センター厚生員によるアトラクション「ワラビンジャーショー」が行われるなど、大いににぎわいを見せました。市長からは「こいのぼりは元気よく大きくなって欲しいという思いが込められています。健やかに成長してください」と、挨拶がありました。式の最後には市からお菓子などのプレゼントが有り、子ども達からは大満足の笑顔があふれていました。



てだこ学園大学院入学式



てだこ市民大学入学式

期待を胸に
生涯学習

5月13日に市立中央公民館において浦添市てだこ学園大学院の第24回入学式が行われ、44人が入学しました。入学学院生を代表して金城武信さんは「仲間と喜びも悲しみも分かち合い、生涯学習を学んでいきたい」と、挨拶しました。また、5月15日には、同公民館において浦添市てだこ市民大学の第3回入学式が行われ、48人が入学しました。新入生を代表して知念修平さんは「市民大学で学び、将来自信を持って地域のキーパーソンになりたい」と、述べました。



5/9 (月) ひとりでも多くの人を
救いたい

毎年5月の赤十字運動月間に合わせ、浦添市赤十字奉仕団の社資募集出発式が市役所中庭で行われました。日本赤十字社では東日本大震災の被災地で医療支援活動、救援物資配付活動、心のケア活動などを行っており、その活動費用は義援金からではなく、社資(資金)によって賄われていることから、より多くの募集を呼び掛けています。奉仕団の山川重子委員長は「大震災の後、私たちに何が出来るか考えた。厳しい経済状況ではあるが、救援活動を支援するために、目標額約1,065万円を達成するよう全力で頑張りましょう」と、話しました。



4/11 (月) 安全確認、忘れずに！

新入学児童が、初めて学校に通う4月において交通安全指導を行い、子ども達の交通安全の意識を高め、また運転者の交通マナーの実践を習慣づけることを目的に交通安全街頭指導運動が行われました。今年4月8日から28日までの期間、「こわいのなよそみ飛び出し気ゆるみ」をスローガンに行われました。また、運動を推進するため4月11日には、内閣四丁目の交差点において市長、浦添警察署長、浦添地区交通安全協会会長らによる街頭指導が行われました。市長らに見守られながら、子ども達は安全確認をし、元気良く登校していました。



4/7 (木) ~ 4/11 (月) 被災地で
メンタルケア

東日本大震災の被災地である岩手県大船渡市に本市から2人の保健師が派遣されました。現地では1軒ずつ家庭訪問し、健康状況を聞き取る活動を行い、被災者からは「遠い所からありがとう。話を聞いてくれただけでもありがたい」などの声がありました。被災された方の中には津液体験のフラッシュバック(強い情動反応)、家族や友人を亡くした喪失感、抑うつ状態、精神的脱毛、余震による精神的不安定、不眠などの症状が見られました。被災地では医療従事者が行方不明になったり、薬が不足したりするなど、医療・介護サービスの低下が見られているとのことでした。